



## 日本史④ (大和朝廷の成立)

1月①のごあいさつ

山内公認会計士事務所  
2024年1月1日(月)

卑弥呼の死(266年頃)から約20年後、天照大神の子孫にあたる神武天皇が初代の天皇となったと言われている。

しかし、神武天皇は実在せず、**第10代の崇神天皇**が、原始的な小国家を統一して政権を建て、国内統治を進めた**第一代の実在した天皇**と考えられている。邪馬台国から約150年後の**仁徳天皇**(第16代、在位313~399年)は、**倭王讃**とされ、宋の高祖の永初二年(421年)、宋に使を送り、宋の高祖は、「**倭王讃、万里貢を修む。叙授を賜うべし**」として爵位を授けた。

邪馬台国から仁徳天皇までの約150年間に大和朝廷(天皇)の勢力は、倭国の支配を強め、**大和政権の基礎を確立した**ようである。

また、宋の順帝の昇明二年(478年)、**倭王武は文書を送り**、私の国は中国から遙か遠いところにありますが、各地で戦い、東は毛人の55ヶ国、西は衆夷の66ヶ国を征服し、海を越えて北方の95ヶ国を平定しましたと報告し、これに対し宋の皇帝は詔を下して、**武を安東大將軍、倭王に任命した**。

この任官は、従来の倭国王の任官と比べれば飛躍的な発展であり、**武の外交の成果**を見ることができる。

**倭王武は、第21代の雄略天皇とされ**、対立する皇位継承候補を一掃して即位し、**王権を強化した**。また、諸氏族の反乱を鎮圧し、宋書にも見えるように**対外関係にも精力的に活躍した**。

親族である諸皇子を排し、平群臣真鳥(ヘグリノオミマトリ)を大臣に、大伴連室屋と物部連目を大連とし、秦氏や漢氏をはじめ渡来人をも重く用いて政権の強化に努め、**強大な権力を持った英雄的、専制的な天皇**であったと思われる。

その治世は、**大和朝廷の実力が伸張した5世紀後半**に当たっている。

宋書の外に、**稻荷山古墳出土鉄剣銘文**と**船山古墳出土大刀銘文中に倭王武(ワカタケル)の名がみえ**、この倭王武の時代は、**大和政権が関東から九州中部に至る地域の統一を達成**していたことが知られる。これらの銘文等はまた、わが国における漢字使用の最も古い例である。**雄略期は、大王の権力を支える様々な職能集団とそれを統率する世襲職制が整備され、渡来人や地方豪族をその組織に組み込むことによって地方支配を強化していった時代**であった。

参考：(日本史史料集 山川出版社、日本通史 復旦大学出版社)